

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。NITS 大賞に応募する場合、ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. D-95

**研修成果の活用レポート** ※「NITS 大賞」にエントリーされる場合は <award@ml.nits.go.jp> 宛てメールにて、ご応募ください。

<b>所属名・氏名・修了した研修名</b> 六ヶ所村立第一中学校 井関結香 平成 30 年度第 4 回中堅教員研修	<b>応募部門名</b> 校内研修プログラム開発・実践部門
<b>活動名：</b> 国語科における ICT 活用 ～タブレットを活用した授業のあり方～	
<b>解決すべき課題：</b> ・全生徒にタブレットが 1 台ずつ導入されて 3 年経過したが、タブレットを活用した授業については、「調べ学習」の活用が主となっていた。教員へのアンケートで、タブレットの使用で生徒の意欲は向上するが、授業のねらいに迫っている実感が少ないという結果が出た。(グラフ 1) また、教員に「授業でタブレットを使用する自信がない」という声も上がった。このことから、授業でのタブレットの効果的な活用が課題となっていた。	
<b>目標・方針：</b> ・国語科として「授業でのタブレットの効果的な活用」を、本校での研修目標である「発表力の向上」につなげるためにどうあればよいかを研究目標とした。	
<b>活動内容：</b> ※方針・計画に基づいてどのような活動を行ったか、また、複数の活動を展開した場合はその位置づけや関連性を記載してください ・同じ時期に導入した学区小学校の授業での活用状況の情報交換及び生徒の実態把握。 ・年度初めに全教員を対象とした「タブレットの基本ソフトの研修」の実施。(写真 1) ・年度初めに生徒を対象とした「タブレットの基本操作の研修」の実施。(写真 2) ・国語科の「話すこと」の授業実践。 ○発表資料をタブレットのプレゼンテーションソフトで作成。 ○プレゼンテーションの様子をタブレットで撮影。 ○撮影させたプレゼンテーション映像の他者評価、自己評価によるプレゼンテーションの改善。(写真 3)	
<b>活動の成果：</b> ※課題設定に対して、どんな影響、変化あったか、職員や参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。 ・提案授業後の生徒のアンケートでは、「自分の発表を映像で見て、聞くことができるので、良かった点、改善点がはっきりと分かり、次の発表に生かせる。」という意見が多かった。(表 1) ・提案授業後の教員へのアンケートでは、「インターネット以外にプレゼンテーションソフトでの資料作り、カメラ機能などの活用が効果的だと感じた」との意見が出た。(表 2) ・保健体育や音楽でも撮影し、映像を振り返りに活用するなど、活用の幅が広がった。 ・これまでは形に残らなかった「話すこと」や「実技」の評価が、「映像データ」という形で「評価の客観的なデータ」とすることができ、映像を振り返る前と後では明らかに生徒の発表力が向上したと実感できた。	
<b>アピールポイント (アイデアや工夫)：</b> ※3～5 つ程度、箇条書きしてください ・ICT の授業活用での「調べ学習」以外の活用。 ・タブレットのカメラ機能を使っての発表の撮影、映像を使っての振り返り。 ・プレゼンテーションソフトを使ったプレゼンテーション体験。 ・ICT 支援員からの適切な助言 (実践したい内容に最適なソフト、使用方法の助言) 及び、授業内の ICT トラブルへの素早い対応。	

<写真、図表添付欄>

グラフ 1 「教員のアンケート」より

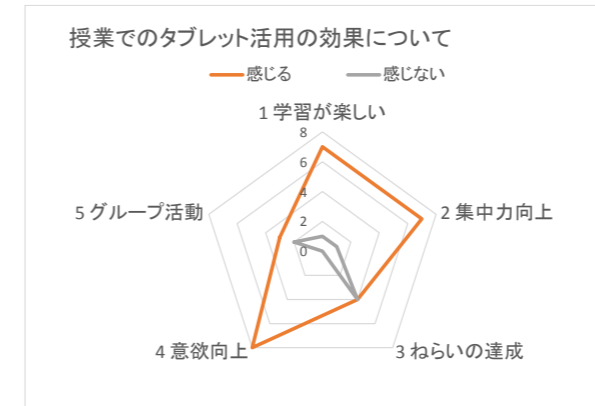


写真 1 教員向けのタブレット基本ソフト研修



写真 2 生徒向けのタブレット基本操作研修



写真 3 プレゼンテーション映像の評価活動



表 1 提案授業後の生徒アンケート結果

プレゼンテーションの授業でタブレットを使ってよかったか？	
よかった 92%	よくなかった 8%
↓	↓
(よかった点) ・自分が話している様子を見られた ・見たいところを繰り返し見られる	(よくなかった点) ・プレゼンテーションソフトの資料作りが難しかった

表 2 提案授業後の参観者のアンケートより

・タブレットで自分たちの発表を撮影することで、客観的に評価することができ、途中で戻れるので、音声言語の表現の授業の学習に ICT は効果的だとわかりました。活用するには準備など大変そうな面もありますが、自分でも挑戦してみようと思いました。  
 ・映像を比較することでよい発表との違いが意識され、どうすればよいかもイメージ化できる点が生徒たちの表現力の向上につながると感じました。